

## 美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表現する。	造形的な美しさや表現の意図と工夫について考え、豊かな発想と構想を練る、多様な見方や感じ方を深める。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア 道具の扱い方や技法等の知識が定着が不十分であり、用具や素材の適切な表現ができず、構想とのズレが生じ、造形・写実的な表現に課題がある生徒がいる。</p> <p>イ 表現の意図と美しさを関連付けて構想し、配色、形などの表現方法の構想・選択に課題がある生徒がいる。</p>	<p>ア 課題に対し道具の使い方や工程をわかりやすく説明する。制作時には、生徒自らに道具の使い方や技法等を試させながらより良い造形・写実的な表現を見つけさせていく。写実的な表現においては対象をよく観察することを指導する。</p> <p>イ 参考作品に触れ、課題に関連した美術作品や日常生活の中にある美しいもの・デザイン性の高いものなどを鑑賞学習に取り入れる。さらに、鑑賞学習の中で、表現の意図や美しさについて追究させる。</p>	毎授業時間内	
第2学年	<p>ア 対象や事象を捉えることが難しく、適切な表現方法を選択して構想通りに作品を制作することに課題がある生徒がいる。</p> <p>イ 発想・構想する力はあるが、多様な見方をしながら考えたり、表現の意図や工夫を考えたりすることに課題がある生徒がいる。</p>	<p>ア 課題から学ばせたい意図を明確に説明する。また鑑賞やインターネットを活用した技法と作例とを関連付けて説明するとともに、実演からさらに重要なポイントについての解説を行い、練習をさせて技能の向上を図る。</p> <p>イ 生徒たちの生活に身近な例から学習内容を工夫し、生徒自身が関心を持つよう促すとともに、課題を進めていく過程で、考えたことを文字や絵を用いて説明させる工夫を行う。また、意見交換や発表をさせることで様々な考え方や意見を共有し、考えを深めさせる。</p>	毎授業時間内	
第3学年	<p>ア 適切に用具を扱うことができるが、構想に合わせて知識や技術・技法を生かすことに課題がある生徒がいる。</p> <p>イ 構想を練る中で、造形的な美しさを表現することに課題がある生徒がいる。</p>	<p>ア 用具の基本的な使い方について復習させ、さらに応用方法などを技法と関連付けて説明する。また、授業の目標を明確にし、自分の構想を踏まえて実践・練習する時間を設けることで、生徒一人一人の技能の向上を図る。</p> <p>イ 鑑賞学習の中で、普段意識しないような制作過程から、幅広い表現方法の可能性や、想像の幅を広げられる時間を設け、造形的な美しさに関連させながら制作の構想について考えさせる。</p>	毎授業時間内	

## ■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

## 全学年

- ・インターネットを活用した情報の収集・アイディアの構築・制作工程や道具の使い方の確認。
- ・スライド機能での課題の共有。
- ・カメラ機能を用いた作品の工程確認や生徒同士の作品写真の共有。
- ・編集機能を用いたイメージ構成・添削。

## ■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

## 全学年

- ・学習目標や制作期間を明示した制作振り返りシートを到達目標ごとに確認・記入させ、技能や目標、進度の確認をさせる。
- ・鑑賞や参考作品などを通して生徒の興味・関心を促し、簡単な道具の使用法を実践させ、成功体験を増やす。
- ・対話から制作イメージや発想の仕方について考えさせ、その場で実演したり、実践させる。